

令和8年5月11日

全体朝礼 挨拶（感動を分かち合うには）

皆さん、おはようございます。新学年が始まって早くもひと月が過ぎましたが、自分の考える学校生活は順調に進んでいますでしょうか。

安全・安心で学業や部活動に集中できる、他人によって不愉快な想いをしないですむような学校環境をみんなで創って、有意義な高校生活を送ってほしいと考えています。ぜひ皆さん、一人ひとりの協力をお願いします。

さて、今お話しした「協力」ですが、漢字を耳で聴き、皆さんの頭の中で描いてもらいたいのですが「協力」という漢字は、三つの力を+（足す）力と書いて「協力」ですよ。ね。

自分と学校と家庭の力であったり、自分と部員と指導者、または保護者であったりと、どんな大人であっても生まれてこの方一人で育った子どもは誰一人いません。皆、周りの方々の協力があってここにこうしています。私は家庭内の、または校内など人々の協力体制に、心から感謝を持ちたいと考えています。

話は少し変わりますが、先日、鹿児島県と宮崎県の高校サッカーベスト8チーム、16校で南九州大会を実施し、3位となった本校サッカー部の応援を、強く吹く風と雨の中、応援に行ってきました。私が注目したのは本校部員の一人ひとりの活躍はもちろんですが、ベンチにスタンバイしている部員や審判・本部役員も観ていました。

ベンチでは、バックアップをいつでもできるように観戦したり身体を動かしてスタンバイする選手、スタンバイ選手のユニフォームがフィールドプレーヤーと重なって審判がジャッジしにくい状況をつくらないようにと、控えテントに異色のビブスを取りに行く部員、風にあおられ飛びそうになるテントを押さえにいく部員などが見て取れました。

試合は、相手が居てそれをジャッジしてくださる審判がいて成り立ちます。日頃いくら汗水流してハードなトレーニングを積んでも、味方や相手、審判がいないとプレーする喜びは味わえません。

また、バックアップ選手を含む部員全員が、日頃から「協力」しているからこそ3位を勝ち取れたのだと感じました。

このことから分かるように、人の行いと感動は、一人の力では得られないことも、多くの人と力を合わせることで結果と感動を分かち合うことができるようになるのです。

結びに、皆さんが、これからも家庭や学級、部活や地域において、個々の役割を自覚し協力をいとわず、利他の心で力を発揮し、喜んでもらえる存在になっていくこと、ひいては、生徒諸君自らが成長することを期待して、本日の全体朝礼挨拶といたします。